



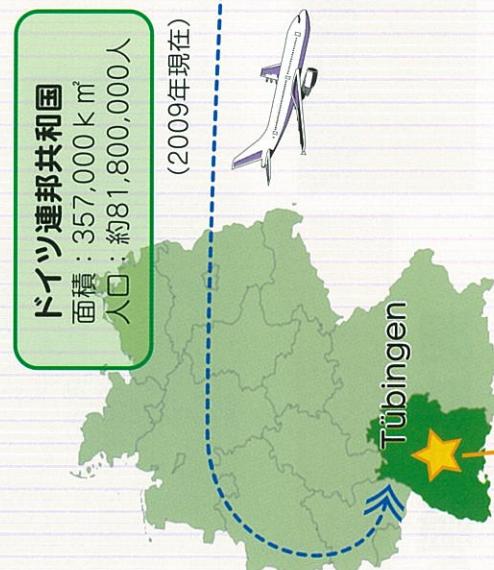
News Letter

女性首率いるドイツの「男女同権」を学ぼう！

昨年度、秋田大学男女共同参画推進室ではドイツ・テュービンゲン大学からハイディ・ブック＝アルブレッヒト氏を講師にお招きし、国際シンポジウムを開催しました。ドイツの現状や政府・州が取り組む「男女同権」政策について、ワーキング・マザーとしてのご経験も交えながら、ご講演いただきました。

ドイツとの歴史的・文化的背景の違いはもちろんありますか、日本の男女共同参画の現状と似たような問題もあり、シンポジウムの参加者からも、「共感する部分が多くつた」というような声が聞かれました。

今号は、日独国交150周年を記念する今年度最初のニュースレターとして、「ドイツの男女同権」を特集いたします。



テュービンゲン市
バーデン・ヴュルテンベルク州、テュービンゲン郡の都市。
ハイディ・ブック＝アルブルレット氏の所属するテュービンゲン大学
を抱える大学都市。
面積：108.12km²
人口：85,334人（2008年現在）



ハイディ・ブック＝アルブルレット氏
ドイツ・テュービンゲン大学
アジア地域文化研究所
日本学科研究員
2人の子どもの妊娠・出産・育児をしながら研究を続ける。

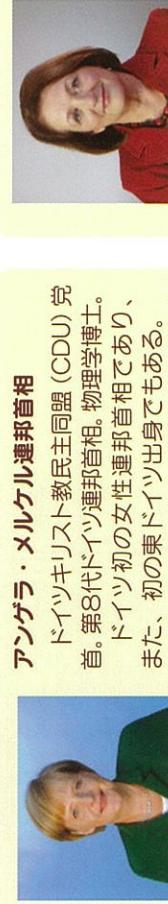
シンボジウムでは、ご自身の体験も交えながら、奨学生の制度などを紹介していただきました。

日本国
首都：東京
国土面積：377,947km²
人口：約127,510,000人
(2009年現在)

女性首率いる国、ドイツ

現在、ドイツでは2005年から首相を第8代ドイツ連邦首相を務めるアンゲラ・メルケル氏をはじめ、多くの女性政治家が活躍しています。連邦議会に占める女性議員の割合は近年著しく伸びています。1980年にはわずかに8%だった女性議員比率が2009年には33%となっています。メルケル首相が党首を務める、キリスト教民主同盟（CDU）では党員の4分の1が女性党員です。現在16人いる閣僚メンバーの内、6人が女性です。

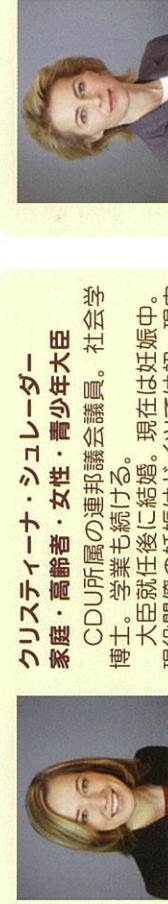
アンゲラ・メルケル連邦首相



(c) Bundesregierung/Chaperon

**ザビーネ・ロイトホイザー
=シュナレンベルガー法務大臣**
自由民主党（FDP）の政治家。この職に就くのは2度目。1992年-96年にも連邦法務大臣を務めた。

クリスティーナ・シュレーダー 家庭・高齢者・女性・青少年大臣



(c) Bundesregierung/Chaperon

CDU所属の連邦議会議員。社会学博士。第8代ドイツ連邦首相。物理学博士。ドイツ初の女性連邦首相であります。また、初の東ドイツ出身でもある。
**ウルズラ・フォン・デア・ライエン
労働・社会大臣**
CDU所属の政治家。医学博士。公衆衛生博士。第1次メルケル内閣では家庭・高齢者・女性・青少年相を務めた。7人の子どもの母親であり、出産・子育てをしながら学位を取得した。

イルゼ・アイクナー 消費者保護・食糧・農業大臣



(c) Bundesregierung/Chaperon

キリスト教社会同盟（CSU）の政治家。前内閣より続投。
**アネット・シャヴァーン
教育・研究大臣**
CDUの政治家。神学博士。前内閣より続投。



男女同権と高齢化

男女同権の取り組み

「男女同権」はドイツにおいても、他国同様、近年大きく進展しています。大学に入学する女性比率は、2009年で全日本の半数以上になり、博士号を取得する女性も全日本の40%以上を占めています。これは連邦教育研究省の「女性教授プログラム」が大きく貢献しています。このプログラムの中で、2007年から260名の女性教授が採用されています。その三割は理系や工学系の教授です。

また、職業を持つ女性の割合は、2008年の扶養法制定以降増加し、女性のほぼ70%が就労しています。しかし、ほとんどの男性はフルタイムで勤務しているのにに対し、特に就学前の子どもがいる女性は、パートタイムの勤務を選択せざるを得ない状況があります。その要因の一つとして、他の欧州諸国と比べ、保育施設に入所できない児童が多いのです。

2007年から導入された両親手当ではもう片方の親も2ヶ月育児休暇を取得すると、手当支給期間が14ヶ月まで延長されます。以降、それまでほとんどに近かつた父親の育児休暇取得率が16%を超えるまでになりました。日本では、男性の育児休業取得率はさらに低く、平成21年度の調査で、わずかに1.72%と1割にも届いていない状況です。



秋田大学国際シンポジウム「持続可能な男女共同参画のあり方を探る」

2011年2月21日、ドイツ・テュービンゲン大学よりハイディ・ブック＝アルブルレット氏をお招きし、ドイツにおける男女同権の取り組みや、ご自身の体験などを交えながらご講演いただきました。

最近、ドイツで問題になっているのは、企業の中で指導的地位にある女性が少ないということです。ドイツの大手企業などが指導的地位の女性を増やすための取り組みをはじめています。例えば、自動車部品メーカー大手のボッシュグループは2012年までに指導的地位の女性比率を現在の10%から15%に引き上げるという計画を発表しています。政府としても、民間企業の比率制度の導入に向けて話し合いが進められています。(前述シンポジウムのハイディ・ブック＝アルブルレット氏の講演より)



（前述シンポジウムのハイディ・ブック＝アルブルレット氏の講演より）

私も二人の子どもを育てながら研究活動を続けてきました。今よりもっと保育施設が少ない状況でしたから、「保育ママ」と呼ばれる、個人で子どもとの保育サービスを提供する人のところへ預けて動きました。ドイツでは保育園などが少ないので、保育ママが多いのです。

最近になり、学童保育施設も増えできましたが、子どもを放課後に施設などに預けてまで働く女性に対して、反対の声も多くあります。



h land
会への取り組み



高齢社会への取り組み

ドイツの平均寿命は2009年には、男性が77歳・女性が82歳と近年で大幅に伸びてきました。出生率は1975年以来、女性一人当たりに対し1.4人前後の状態が続いており、ドイツ国民の4人に1人は60歳以上という少子高齢化社会です。

高齢化社会政策として、ドイツは国民生活を支える福祉制度の第5の柱である介護保険を1995年に導入しました。強制加入で、現在は労使折半で保険料を負担していますが、将来的には積立制を導入していく予定です。日本では2000年4月より介護保険制度が導入されたが、概ねドイツの介護保険をモデルとしているといわれています。

ドイツの高齢者たちの暮らしについて、は、介護保険など進んだ福祉政策により、他の年齢層よりもは貧困に悩む人は少なく、ドイツ全体の購買力の約3分の1を60歳以上の年齢グループが支えています。健康に気を遣う人の割合も多く、60歳以上の3人に1人は、毎日何かしらのスポーツをしているというデータがあります。また、現在の高齢者はインターネットに尻込みすることもなく、オスマブリュック大学の研究によると、現在ドイツのインターネット利用者の主流年齢グループは45歳以上だということです。



Interview



ベビーカー専用席のマーク

A: 日本にはない代表的なものは、日本でいう助産師なのです。出産に立ち会う病院専属の

C: 「パパ友」、いじです。日本ではあまり見かけない光景です。公的なサービスもやはり充実しているのでしょうか。

電車やバスには必ずベビーカー専用席が設けられています。乗り降りの際に周りの人人が手を貸してくれます。それがとても自然なだけで、ママたちは一人でも気軽にねむかけできますよね?

C: すてきですね。そういう環境

A: まずは、ドイツで実際に子育てをされた率直な感想をお聞かせいただけますか?

A: とても楽しいです。子育てをしていて、今のところ、辛いところ大変とか感じたことはないですが、私の性格もあるし思うので、「ドイツだから」といえるところが多いです。

C: 子育てに積極的な国民性なのでしょうか? 詳しくお聞かせください。

A: 「子育てに積極的」というよりは、ママに優しい国だと思います。ママに優しい国だと感じます。

C: なぜですか?

A: そつなんです。カフエやレストランも赤ちゃんをベビーカーに乗せたまま入れてくれるお店がほとんどないので、ママたちは赤ちゃんと一緒にカフエでお茶をしたり、友人と食事に行ったりと自分の時間をちゃんと楽しんでいます。

ベビーカーも日本のものに比べると大きくて、重い。石畳の道も多いので、軽さや機能性よりも丈夫であることが重要です。

C: ドイツにおけるパパの育児参加について教えていただけますか?

A: ドイツは「パパも育児」が当たり前になっています。パパが一人でベビーカーを押す姿はよく見かけます。ベビーカーを並べてカフエでお茶をする「パパ友」たちもいますよ。

C: 「パパ友」、いじですね。日本ではあまり見かけない光

A: へへへ」という点では大きく異なりと思います。

うな気がしますが、「権利意識」という点では大きな違いがあります。

ドイツの「ママカフェ」の様子
パパの姿も...

へへへのほかに、妊娠婦の自宅が訪問を専門的に行うへへへ

C: どのくらいおじをしてくれるのですか?

A: 産前・産後の2~3ヶ月の間、自宅を訪問し、赤ちゃんを授乳させる場所からオムツ替え・調理(血圧・会陰部の状態など)も診てくれます。

はじめの1ヶ月は1日おきのペースで訪問し、余々に1週間くらいおきになります。定期的に訪問してくれうま

開き、離乳食の時期には訪問を再開し、色々と教えてくれます。担当のへへへは妊娠婦や家族で選びますが、国の制度なので

費用はかかりません。出産も費用はかかりず、無償分娩も日本

より普及していて、もちろん無料です。

C: 日本でも保健師が訪問する制度はあります。少し遅いですが、自分で担当を選べて、しかも無料であります。料金はかかりません。

国の制度はもちろん、みんなで母子を守り、育てていくという環境作りが大切ですね。

自宅訪問専門のへへへ



編集後記

前回の増刊号に引き続き海外の男女共同参画の取り組みを特集しました。ドイツはノルウェーよりも日本の状況に近いよう

な気がありましたが、「権利意識」という点では大きく異なると思います。

参考文献

- 「ドイツの実情」 Socortas-Verlag 2009 (ドイツ連邦外務省編集協力)
- 「de-Magazine Deucheland」 Socortas-Verlag 2009 (ドイツ連邦外務省編集協力)
- 「ドイツ連邦政府ウェブサイト」 www.bundesregierung.de